

「9つの心得」で、 誰もがたちまち聞き上手。 信頼される聞き手になろう！

『「聞き方」を変えればあなたの仕事はうまくいく』
2016年10月28日（金）発売

どんな職場でも求められる コミュニケーション力！

これまで数々の著名人など3000人にインタビューをしてきた上阪徹氏が、その聞き方の秘訣をまとめました。

一般社団法人 日本経済団体連合会が行った「2015年度 新卒採用に関するアンケート調査結果」では、「選考にあたって特に重視した点」を聞いたところ、85・6%の企業が「コミュニケーション能力」が必要だと答えています。主体性60・1%、チャレンジ精神54・0%をおさえて、社会人においてダントツ1番に求められている能力が、コミュニケーション能力なのです。

この重要なコミュニケーション能力の中で、



【書籍情報】
『「聞き方」を変えれば
あなたの仕事はうまくいく』
上阪徹
定価：1,380円＋税
ISBN：978-4-905073-63-5
判型：四六版並製 256頁

最も必要なのが「聞く力」だと上阪氏は述べています。過去には、「話し方」の本が流行したことがありましたが、上阪氏は本著で「しゃべることがコミュニケーション力ですか？」と直球を投げかけます。

「本当はみんな話したがっている」とい

う上阪氏。そして、そんな心を満たす「話を聞いてくれる人」は、大変評価されるのです。しかも、「上手に話す」には多様なスキルが必要ですが、「この人に話しても大丈夫だ」と思ってもらえることは、ちょっとしたコツをつかめばOK。本著では、気持ちの良い挨拶をする、聞くことを事前に考えておく、あいづちやうなずきを大切にすること、そう、明日からすぐに使えるようなポイントがまとめられています。

聞き方を習得すれば、なぜか営業がうまくい

かない営業マンも、上司と何の話をして良いかわからない若手社員も、問題を解決することができます。そして、自分の苦手意識を払拭できたら、自己評価も変わっていきます。自信を持って、相手と向き合うことができるようになるのです。

「聞き方」の基礎力を養い、コミュニケーションに怯えることのない自分になってほしい。そんな思いで、本著を企画しました。

↓裏面へ続く



聞き方マスターになるための具体的なアプローチと、 コミュニケーションのSOSシーンを救う手立てを紹介！

本書は、「聞く」ことがどういうことかを理解し、聞くための姿勢・準備を整えていくことが重要だと解説しています。

例えば、「相手からやや斜めの位置に座り、フォーマルな距離感をつくる。」「見た目で評価が決まることもあることを知ろう。」「5W1Hで質問を考えておこう。」など。

こうした、具体的な手法を取り入れることで、あなたのコミュニケーションがグッと変わっていくのです。

本書の魅力は、第3章「苦手な人と、どうコミュニケーションするか」や、第4章「続かない会話を引き起こすタブー」など、コミュニケーションで困ったシーンを救う手立てを紹介していることです。「明日の上司との会食、気乗りしないな…」「営業で会いに行くけれど、どうしてもあの人とは話が弾まないんだよね…」というときには、本著の該当ページを開けてみてください。すぐに対処できる方法が載っています。まさに、聞き方の実用書という新しいジャンルの一冊といえるでしょう。

最後には、「聞き方力」をアップするためのレッスンを紹介しています。名だたる著名人にも怯むことなくインタビューできるライターのようになり、どんな人と向き合ってもスムーズにコミュニケーションできる「聞く力」を養うことができます。

内容紹介

ライターとして数々の人気作を持つ上阪徹氏が、3000人にインタビューをして見えてきた「聞く技術」について紹介していきます。聞くことは、どんな職業においても必要なスキル。聞く力を養うことで、コミュニケーションに憂鬱になることがない自分になれます。つまり、プライベートでも仕事でも、少し違った自分に成長できる一冊なのです。

筆者が何よりも大切だと述べているのは、聞くための「9つの心得」です。

- 一、聞かれることは嬉しいことであるを知る
- 二、聞くことは意外に簡単ではないと認識する
- 三、聞く姿勢は相手に伝わると理解する

- 四、相手に関心を持つ
- 五、大事なことは、話やすい雰囲気作り

- 六、うまく聞こうとしなくていい
- 七、やってはいけない聞き方がある
- 八、聞くことは学びにつながる
- 九、聞いていれば、聞いてもらえる

どの心得も難しいことはなく、すぐに使えるコツばかり。コミュニケーションに苦手意識を持っている方が、第一歩を踏み出せる書籍になっています。

出版社からのコメント

——3000人にインタビューしてわかったこと。著者の上阪徹氏は、著名人から一般の若者まで、幅広くインタビューをするライターです。ライターというと、「書くこと」が仕事の95%だと思われがちです。しかし、上阪氏は「読者に役に立

つ内容や、言葉を、どれだけ取ってくるのができたかということ」がライターの仕事の軸だと言います。つまり、取材対象者の言うことをいかにきちんと聞くことができるか、ということが重要だと述べているのです。

上阪氏が豊富なライター経験の中から会得したのは、まさに圧倒的な「聞く力」。大切なのは、話を聞かれることは人にとつて嬉しいことだと認識し、聞くために必要な姿勢や具体的な手法を知ること。これにより、グッと相手との関係性が深まるのです。

本書はどんな関係性の相手にでも使える「聞く手法」が収録されています。初対面の人とどんなふうにかコミュニケーションをとつたらよいか悩んでいる方、苦手な人と話さなければいけない方、会話の中で訪れるピンチへの対処法を知りたい方、そんな方にオススメの一冊です。

【著者紹介】

上阪 徹（うえさか とおる）

1966年、兵庫県生まれ。89年、早稲田大学商学部卒。アパレルメーカーのワールド、リクルート・グループを経て、94年よりフリーランスのライターとして独立。経営、経済、就職などをテーマに、雑誌や書籍などで幅広く執筆やインタビューを手がけている。広範囲に及ぶ取材相手は軽く3000人を超え、自らが聞き出した成功者のエッセンスを伝える講演活動も行う。著書に『職業、ブックライター 毎月1冊10万字書く私の方法』（講談社）、『ライザップはなぜ、結果にコミットできるのか？』『なぜ気づいたらドトールを選んでしまうのか？』『成城石井はなぜ安くないの選ばれるのか？』（あさ出版）、インタビュー集に累計40万部を突破した『プロ論。』シリーズ、『外資系トップの仕事力』シリーズなど。

リリースのお問い合わせ先
株式会社文響社 広報担当

TEL 03-3539-3737
FAX 03-3539-3738

E-mail info@bunkkyosha.com